

全日音研長野大会だより — 第1号 —

H24. 5.11

高めよう！ 音楽の確かな力
味わおう！ 音楽の美しさ
分かち合おう！ 音楽の喜び

発行：長野大会実行委員会事務局

♪♪いよいよ、スタートです♪♪

一昨年度から準備を進めております全日音研長野大会が、半年後に迫りました。実行委員会は新年度を迎えて先生方の異動もあり、ようやく組織が固まったところです。本日、第1回の実行委員会が開かれます。全スタッフが集まり、改めて意識を高め、開催に向けての研究・準備を進めて参ります。

事務局では、この「全日音研長野大会だより」を通して、長野大会のより詳しい内容や見どころをお伝えすることになりました。できるだけわかりやすく・親しみやすくをモットーに作成していきますので、どうぞよろしくお願いたします！

♪♪全日音研とは？♪♪ (全日音研本部 HP より抜粋 <http://www.jsme.net/welcome.htm>)

正式名称は「全日本音楽教育研究会」。音楽教育に関する研究を推進し、わが国音楽教育の向上発展に寄与することを目的とした、研究団体です。

会員は、全国の小・中学校の音楽を担当しておられる先生、高等学校は、会員登録された先生、大学は、会員登録された大学に属する先生方です。

小学校部会、中学校部会、高等学校部会、大学部会から成り、それぞれの部会が前述の目的に向かって活動しています。奇数年度は、小・中・高・大がいっしょになった総合大会、偶数年度には、部会毎の全国大会が開催されます。

～これまでの大会のあゆみ～

平成21年度（東京大会）

『音楽の喜びを分かち合い求め続ける心を
育てよう』

平成22年度（熊本大会）

『感じとろう 伝えあおう 高めあおう
音楽のよろこびを』

平成23年度（札幌大会）

『音楽のよさを生かし、豊かな心と確かな
力をはぐくむ音楽教育』

長野県では、昭和56年に全国大会を開催しており、今回は約30年ぶりの開催となります。公開授業数、計13校園という規模は、長野県の音楽教育の歴史の中で過去最大です。全国から約1200名の参加者を見込んでいます。





全日音研長野大会にかかわるすべての皆様へ

実りに向かって 1

全日音研長野大会実行委員長 小林雅彦
(須坂市立墨坂中学校長)

若葉がまぶしい季節となりました。やがてこの若葉が、与えられた命を存分に生き切り、黄金の葉を落とす頃、全日音研長野大会がやってきます。それまでの期間、この木々たちと一緒に、与えられた場と時を存分に生き切りたいと思う今日この頃です。

ある授業者の先生からいただいた手紙に、こんな一文がありました。

《「かつて、いじめが問題になっていた3年生の授業で『ふじ山』をやったときのこと。ある女の子が『堂々と胸を張っている富士山のように、私は二度と絶対いじめをしないという気持ちで歌いたい』と言って、(みんなが『ふ』をふくらませて歌う工夫をする中で)『ふ～じは』の全体を勢いよく、とても強く、堂々と胸を張って歌いました。その子の思いが込められた歌に、みんなの大きな拍手が沸きました。その子に「強弱をつけた」という意識はなく、自分の気持ちにふんぎりをつけたいとねがい、ただひたすら堂々と歌いたかったのです。しかし、そこから生まれた音楽は、言葉の一つ一つがていねいで、しかも力強く、最後まで声が広がっていくような歌い方でした。その子は歌った後の感想にこう書きました。

『この歌を歌って、わたしは成長したと思います。ずっと、この歌を忘れないでいたい』と。》

ここまで読んで、私はこの授業を見たかった、と心から思いました。しかし先生は、続けてこうも書かれました。

《今、共通事項を学ぶと、子どもの中には確かに他の曲にも応用して生かそうとし、とても興味深い姿が見られます。聴いている人に〈思い〉を伝えたいけど、どう表現すればいいのか明確でなかった子どもたちは、表現するための公式を得たかのように、いろいろとやってみるようになりました。でも、そこに、歌詞から自分を見つめ返して思いを込めて歌う姿や、深く歌詞について考えて心を寄り添わせて歌う姿が見られず、何か違うのではないかと・・・。》

この先生の課題意識は、おそらく多くの先生方の共通した意識ではないでしょうか。共通事項を窓口としながらも、やがてそれらの要素が頭から溶け出して自分の思いに重なってこそ、かけがえのない「私のふじ山」が誕生するのだと思います。今、この過程をどう教材化するかという生みの苦しみを、多くの本大会授業者が味わっています。どの授業にも公式などはありません。でも私たちは、上記の「この歌を歌って、私は成長した」と思える子どもが一人でも多く生まれることを夢見て、今まで以上に子どもの表情をじっくり見て、子どもの声に耳を傾け、子ども同士をつなぎ、時にはじっと待つことにしましょう。私たち自身の姿が、実は授業の中の子どもの姿の中にあることを忘れずに・・・。

あと6ヶ月です。実行委員の皆さん、県音楽教育学会はじめ音楽教育に携わる皆さん、それを支えてくださっている皆さん、長野大会の大会主題である3つのねがいにむけて、力を合わせて進んでいきましょう。私たちのアンサンブルの力のみが、不可能を可能にできると信じています。

『高めよう！音楽の確かな力

味わおう！音楽の美しさ

分かち合おう！音楽の喜び』

♪♪大会の概要です！♪♪

1. 名称 平成 24 年度 全日本音楽教育研究会全国大会（小・中学校部会）長野大会
第 61 回長野県音楽教育研究大会長野大会
2. 期日 平成 24 年 11 月 15 日（木）・16 日（金）
3. 会場 ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）ほか
4. テーマ **高めよう！音楽の確かな力。味わおう！音楽の美しさ。分かち合おう！音楽の喜び。**
幼稚園：感動を共有し 自分なりの表現を楽しむ活動づくり
小学校：音楽のよさを感じ取り 伝え合い 心がつながる授業づくり
中学校：音楽の意味や価値を自ら見だし 心が響きあう授業づくり
5. 全体講師 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官
初等中等教育局教育課程教科調査官（併任） 大熊 信彦 先生 ・ 津田 正之 先生
6. 日程 *基本計画をご覧ください。

7. 公開授業

	会場	授業校	授業者	研究主任	内容
幼稚園	A会場 昭和幼稚園	信学会昭和幼稚園	山浦あかね 藤田 真由	河原田ゆかり（昭和幼稚園）	表現（年長）
	小学校	B会場 芹田小学校	長野市立芹田小学校	田添 愛香	中澤 恵子（吉田小）
須坂市立高甫小学校			駒村 京子	山口理恵子（森上小）	歌唱（5 学年）
C会場 裾花小学校		長野市立裾花小学校	眞淵 広美	奥原 玲子（篠ノ井東小）	鑑賞（4 学年）
		長野市立信州新町小学校	伊藤 雅美	後藤 英子（小山小）	歌唱（6 学年）
D会場 松代小学校		長野市立松代小学校	木次 久美	宮澤 静枝（東条小）	器楽（6 学年）
		飯山市立秋津小学校	小林 千佳	藪原あらた（城北中）	歌唱（3 学年）
中学校	E会場 裾花中学校	長野市立裾花中学校Ⅰ	細川 淑子	新田 久美（篠ノ井西中）	鑑賞（3 学年）
		長野市立裾花中学校Ⅱ	山岸 浩	村上恵美子（相森中）	日韓合同（1 学年）
	F会場 ホクト文化 ホール	長野市立北部中学校	長谷部直子	伊藤実和子（犀陵中）	日本音楽（3 学年）
		千曲市立更埴西中学校	西澤 真一	金井也寸志（屋代中）	歌唱（2 学年）
		長野市立川中島中学校	竹腰 益臣	黒柳美ゆき（川中島中）	創作（3 学年）
	長野市立中条中学校	宮崎 靖代	平野 隆一（広徳中）	地域素材（全校）	

8. ワークショップ

- < 歌 唱 > 富澤 裕 先生（合唱指導・作曲家）
- < 音楽づくり・創作 > 後藤 洋 先生（作曲家）
- < 鑑 賞 > 宮下 俊也 先生（奈良教育大学大学院准教授）
- < 日本音楽 > 伊野 義博 先生（新潟大学教授）
- < パネルディスカッション > *検討中

9. 記念演奏

信学会長野北幼稚園 長野市立朝陽小学校 岡谷市立湊小学校 上田市立西内小学校金管バンド
長野ろう学校 信州大学教育学部附属長野中学校 栄村立栄中学校
長野市立裾花中学校吹奏楽部 NJO（長野ジュニアオーケストラ）

10. その他

- ・大会参加費は 6,000 円の予定です。詳しくは、7 月に二次案内を発送しますのでご覧ください。

授業校にインタビュー! ①

信州新町小学校



(校歌の作詞者は椋鳩十、作曲者は中田喜直)

♪ 学校紹介 ♪

ジギスカン・久米路橋で有名なアート&グルメの町「信州新町」唯一の小学校。

「かあさんの歌」発祥の地でもあり、歌碑のある奈津女公園は、子どもたちにとっても馴染みの場所となっています。

全校 156 名。「かしこく、やさしく、たくましく」を目標に、自分の考えをもち、伝え合い、広げ、深めていける子どもの育成を目指しています。

昨年度の研究から見つけた、次への課題は…

- ◇ 友との学びあいをしていくために、音楽的な根拠を持つこと
 - ◇ グループでの学びあいをしていくために、全員の意見が反映されるようにすること
そして、リーダーを育てること
 - ◇ 思いを歌唱表現につなげるための「歌い方のアイデアカード」の工夫
 - ◇ 題材展開を複数の曲で、比較しながらアプローチしていくこと
- などです。

今年度の研究授業 (予定)

題材名「旋律の特徴を生かした表現を工夫して『ふるさとの四季』を歌おう」

教材名『ふるさとの四季』より「ふるさと」「春の小川」「こいのぼり」「かあさんの歌」

〈扱う教材〉

「ふるさと」を中心とした 11 曲からなる唱歌メドレー。今回はその中から、旋律の特徴の違いがわかりやすい 4 曲をメドレーとして扱います。

ふるさとへの思いを表現しながら、歌い継がれ親しまれてきた楽曲のよさを味わって欲しいと願っています。



旋律の音の動き（抑揚）や旋律の反復、変化から生じる強弱・緩急・フレーズ・発音・音色による表現の工夫をさせたいと考えました。そのために、4つの楽曲のもつ旋律の特徴を味わい→作詞者の思いと曲の山との関係を感じ取り→自分たちの「曲への思い」の表現を工夫したり、お互いに聴き合ったりするという学習の流れを計画しています。

工夫したいことを具体的にどうすれば表現できるか、自分の考えを「歌い方のアイデアカード」に書くことで明確にしたり、大判楽譜に全員それぞれが工夫したいことを書き込んだりする活動を取り入れて、全員の意見が反映されるようにしたいです。よろしくお願いいたします。

<全日音研長野大会事務局>

TEL&FAX: 026-238-4133 E-mail: saitota@shinshu-u.ac.jp

信州大学教育学部音楽教育コース内(齊藤)



*長野大会ホームページ (5月末より)

<http://music.shinshu-u.ac.jp/nagano2012/>

(本号文責：丸山希恵)